

二月例会御案内 (平成二十年)

財団法人 協和協会

△△△長 塩川 正 十 郎

○ 御案内

二月二十六日(火) 正午～二時半 参議院議員会館一階 第一会議室 (第五七五回)

講 題 二十一世紀のエネルギー地政学と日本の戦略

講 師 十市勉先生(財団法人日本エネルギー経済研究所専務理事兼首席研究員)

いま、世界は、中国やインドなど発展途上国の経済・生活が発展・向上したこと、石油に対する需要が急速に増えた反面、石油資源がすでにピークを過ぎ下降していることもあり、まさに、世界各国による石油を初めとする化石燃料の奪い合いが始まっている。またアメリカを初め、化石燃料から植物バイオ燃料の生産へとその比重を増やし、そのためトウモロコシ、砂糖、大豆などの高騰を招き、食生活をも脅かすに到っている。

そこで問題は、日本が、こうした地球規模のエネルギー危機を、いかにして切り抜けるか、その対策である。現在までのところ、中国やインドなどがなりふりかまわぬエネルギー争奪戦を演ずる中、日本の対策が遅れ気味に見えるので、今回は、エネルギー問題の権威・十市先生に解説・対策をうかがうことにしました。重要な課題、奮っての御参加を！ (清原記)

◎ 当日の会費 四千元(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

□ 御報告

去る一月二十一日の月例会は、毎年の恒例により『塩川正十郎会長を囲んでの新年懇親会』を、今年は、虎ノ門パストラル五階ミモザの間にて、正午から二時間にわたり、会員多数の参加のもと、清原淳平専務理事の司会進行により、終始和やかな雰囲気の中、開催されました。冒頭に、塩川正十郎会長から、新年をことほぐ御挨拶があり、続いて「近年の政治・経済・

社会情勢について」と題して年頭講話がありました。そのお話は、昨年末の韓国大統領選を初め本年は世界主要国の首長選挙があり、その情勢分析に始まり、続いて、国内問題、昨年の参議院選挙の結果と安倍晋三総理の突然の辞任。そして福田康夫総理の登場、衆・参「ねじれ現象」下での政局の運営分析等々、四十分になり、論旨整然、滔々とお話になり、一同から、御高齢にもかかわらず、明快なお話ぶりに賛嘆の声が挙がりました。その後、吹田元自治大臣の音頭で乾杯。和やかな食事・懇談のあと、植竹繁雄常任理事(元外務副大臣)、江口一雄常任理事(元厚生委員長・防衛副大臣)の年頭所感もあり、大層和やかな新年会でした。

▽ 当(財)協和協会は、「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、そして、平成十五年十月七日、塩川正十郎元財務大臣が会長に就任しております。なお、平成十四年夏から、理事長に、半田晴久が就任しております。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっています。国会議員・同秘書は随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百二十四本に達しております。

事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、重田、高津、濱松

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、頭記月例会への御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

二月二十六日(火) 出 欠 (いずれかに○印——昼食弁当を用意するためにも)